（様式⑦－1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心･健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺 市 立深井中央中学 校
校　長　　泉谷　浩幸

中学校区におけるめざす子ども像　「自らを律し、自ら学び続ける子」

令和７年度　重点目標　●**「学ぶ姿勢」の育成と魅力ある授業づくりの推進**⇒　落ち着いて学ぶ環境を整え、生徒一人ひとりの「強み」に着目した魅力ある授業を通して、学ぶ喜びを実感できるようにする。
● **「生徒の活躍の場」づくりと「自己有用感」の醸成**⇒　授業、部活動、委員会活動、生徒会活動など、あらゆる教育活動において、生徒が主体的に関わり活躍できる場を積極的に設定し、自治の力を育む機会を創出する。
● **「心の教育」の深化と「規範意識」の育成**⇒　人権教育･道徳教育を基盤として、学校生活全体で「自尊感情の育成」と「正しい行動の習慣化」を図る。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢の定着を目指す。
● **学力向上と学習環境の整備**⇒　L-プロジェクト→「教師が好き、教科が好き、学ぶことが好き、繋がりが好き」という4つの“好き”を大切にし、　学ぶことの楽しさを実感できる授業と温かい人間関係づくりを推進する。これにより、『学力向上』と『静謐な学習環境の整備』の両立を図る。

「確かな学び」の現状
生徒との関わりを重視した取組により、意欲的に学ぶ雰囲気が育ちつつあるが、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化が未定着な生徒も見られ、学習への安定した姿勢の確立が課題である。授業中の集中力や規律面においても改善の余地があり、全生徒が落ち着いて学べる静謐な環境の整備が求められる。ICT 機器の活用は進んでいるが、日常的に効果的に使えるよう指導の工夫が必要である。教師と生徒の関係づくりや声掛けを重視した授業改善を通じて、学習意欲を高め、「学ぶことが楽しい」と感じられる授業づくりを進めていく。また、家庭との連携や情報発信を強化し、生徒の学力定着と主体的な学びの定着を図る。

「豊かな心・健やかな体」の現状
日常の教育活動を通じて多様性を尊重し、互いを認め合う人権感覚の醸成に努めてきた。生徒の人権意識は着実に高まりつつあるが、今後は一人ひとりが自分自身の価値に気づき、他者とよりよい関係を築く力をさらに伸ばす必要がある。一方、体力面では全国体力･運動能力,運動習慣等調査の結果では多くの種目で全国平均を下回る結果となった。この問題を対処するにため、体づくりの視点を取り入れた体育授業や、運動への興味を高める授業改善が求められる。体育的行事の工夫や、日常的な運動習慣づくりを含め、全校的に体力向上への意識を高める取組が重要である。心と体の両面から、主体的に健やかに成長できる環境整備を今後も推進する。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組、★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～9 月末）		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	知的探求	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子供の育成	●個別最適化された学びの場を提供し、生徒が学ぶスタイルを選択できるようにする。そのために、ICT 機器を自然と選択肢に入れられるように普段の教育活動において使用機会を多く取り入れていく。	「自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC･タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか」の質問項目への肯定的な回答が７０％を超える。	1. 各種アンケート 2. 授業の様子	1. 3学期 2. 通年	B	ICT 機器を活用する環境整備は進んでいるが、授業中の使用場面は多いとは言えない。今後は効果的な活用方法の共有を研修等で継続し、生徒の学びの質の向上を図っていきたい。				
	授業改善	生徒が授業を好きになる、深く学びたくなる、繋がる、授業を目指し教職員全員で授業改善を図る。 (L プロジェクト)	**●Like・Love（好きになる）** 教科や授業を「好き」になるために、実生活に結びついた本質的な問いを課題として設定する。また、教員との信頼関係が学びへの意欲に一定の影響を及ぼすと考えられるため、日頃から丁寧な関わりを大切にする。	統一テストのアンケートにおいて、「〇〇（教科）の授業は好きですか」という質問項目に対する肯定的な回答が７０％を超える。	各種アンケート	通年	B	教員と生徒との信頼関係構築に向けた声掛けや対話を重視しながら、興味関心を引き出す授業改善に取り組んでいる。生徒の反応にも前向きな変化が見られているが、すべての授業で「好き」につながる実践には至っていない。今後も継続的な取組をしていく。				
			●Learn（深く学ぶ） 学びを深めるために、個人・ペア・グループで探究的な課題に取り組む授業を展開する。ICT の活用を通じて、意見の共有や自分の考えの表現を円滑に行えるよう、必要なスキルの育成にも力を入れる。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	B	課題設定や意見共有の工夫など、深い学びに結びつけるための指導スキルのさらなる向上が求められる。段階的に教科ごとの実践交流や授業研究を行い、改善を図っていく。				
			●Link（つながる） 授業内で他者とのつながりを意識させ、相手の考えを尊重しながら課題に取り組む姿勢を育てる。さらに、教科間のつながりを意識した授業構成により、生徒が見通しを持って学べるよう支援する。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	A	他者との対話を重視する場面の設定が徐々に進んでいる。生徒間での相互理解や協働の場面を増やし、授業内での「つながり」を実感できる雰囲気をさらに育んでいきたい。				
			★「小学校で何を学んできているか」「中学校で何を学ぶことになるのか」を共有し、教員が見通しを持って指導できるようにする。	小中連携の活動日の増加や、従来よりも発展的な研修を持つことができたか。	実施状況 研修計画	通年	A	中学校区としての連携を意識し、情報共有、合同研修などを通じて小学校との接続を見据えた指導が実施されている。教員間の相互理解も進み、今後のさらなる発展的な連携の基盤が築かれつつある。				
豊かな心･健やかな体	社会生践力の向上	他者との関わりを通して社会性と主体性を育み、優しさと厳しさを兼ね備えた信頼関係を築く	●日々の声掛けや行動観察を通して生徒の「強み」を見つけ出し、学級・学年・学校で活躍できる場を意図的に設定する。 ●「優しさ」と「厳しさ」のバランスを大切にしながら、教職員全体で「かかわり貯金」を増やし、信頼関係の土台を築くとともに、生徒の社会性と主体性の育成を図る。	「良いところがある」「得意なことをしっている」「学校が楽しい」と肯定的に回答する割合が７５％を超える。	IRT 調査等 見取り	3学期 通年	A	日常の中で生徒一人ひとりの「強み」を見つけ、活躍の場を意識的に設定する取組を継続している。学級･学年単位でのかかわりの中で、生徒の主体性が発揮される場面が増加しており、信頼関係に基づいた人間関係の構築が進んでいる。				
		人権尊重の精神を育む	●すべての行動、言動において人権意識・道徳意識をもって取り組む。	「友達を傷つけないようにする」「道徳の授業は大切だとおもう」と肯定的に回答する割合が７５％を超える。	学校教育自己診断 IRT 調査等	3学期	A	学校生活全体を通じて、人権意識や思いやりの心を育む働きかけを継続している。生徒の中に「他者を思いやる気持ち」が着実に育ちつつある。				
	生活習慣の改善	･生徒指導の充実を図り、生徒が安心して学べる静謐な学校をめざす。	●日々の生活の中で、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全校共通の生活規範として定着させる。 ★教職員が一体となって基本的生活習慣の指導を継続的に行い、規範意識や自律の力を育む。	「時間を守りベル着ができている」「そうじをしっかりとできている」「基本的なマナーが身についている」と肯定的な回答が75%を超える。	全国学力・学習調査等	3学期	B	基本的な生活習慣の定着に向けた指導を継続している。学級や個人による差はあるが、全体的に改善の兆しが見られている。今後も共通理解に基づく継続的な指導を通して、学校全体での規範意識向上を図っていく。				
地域協働	信頼と連携	地域と一体となり、教育の推進を図り、信頼される学校づくりをめざす。	･教育活動などの学校情報を通信やHP･Tetoru 等で情報提供を行う。 ●★PTA、地域連携しながら各行事･地域活動に積極的に参加する。	･学校HP更新を活性化し,10 万アクセスをめざす。学校便り 500 部を地域配布。･中区各種行事への参加や施設への交流活動の実施。	学校アンケート 実施状況	3学期	A	学校だよりやHP、Tetoru 等による積極的な情報発信を行い、保護者･地域との連携を意識した取組が進んでいる。PTA や地域の行事にも積極的に参加しており、学校への信頼の醸成に繋がっている。				

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）